

103-1 とうきょう湧水めぐり 3 国立天文台下から成城へ (約12km)

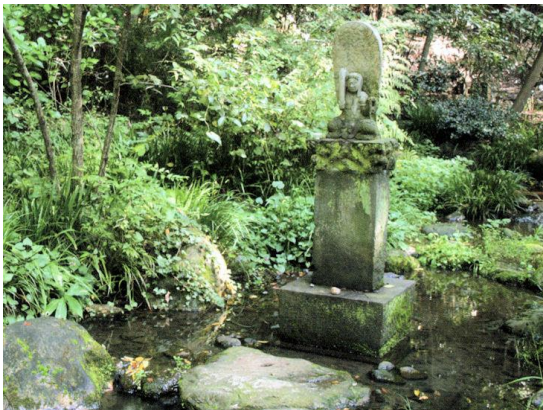
【街歩きの概要】

関東地方では段丘の端っこをハケと呼び、古い多摩川が刻んだハケの連なりは国分寺崖線と呼ばれて成城あたりまで延々と続いている。「ハケの道へ1、2」に続けて、ハケに散在する小さな森と湧水、そしてハケの道を連ねて歩く。

【道順】

国立天文台下→深大寺深紗堂（湧水）→深大寺本堂・不動滝（湧水）→深大寺水生植物園（湧水）・深大寺城跡→青謂神社→（都立農業高校（湧水））→甲州街道→京王電鉄つじヶ丘駅→甲州街道南寛政12年庚申塔→実篤公園（湧水）→明照院・糟峰神社→野川谷戸橋→成城4丁目十一山ハケ→神明の森ハケ・みつ池（湧水）→喜多見不動→富士の見える橋→小田急電鉄成城駅

ルートマップ（無し）



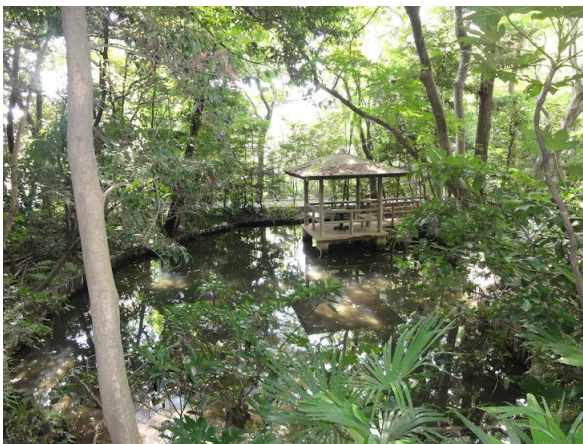
深大寺深紗堂（湧水）境内にはいくつもの湧水がある



深大寺本堂・不動滝（湧水）



深大寺水生植物園（湧水） 近くの都立農業高校にも湧水がある



実篤公園（湧水） 園内には湧水がいくつかある



神明の森ハケ



神明の森みつ池（湧水）



かつてあった、泉の地図記号

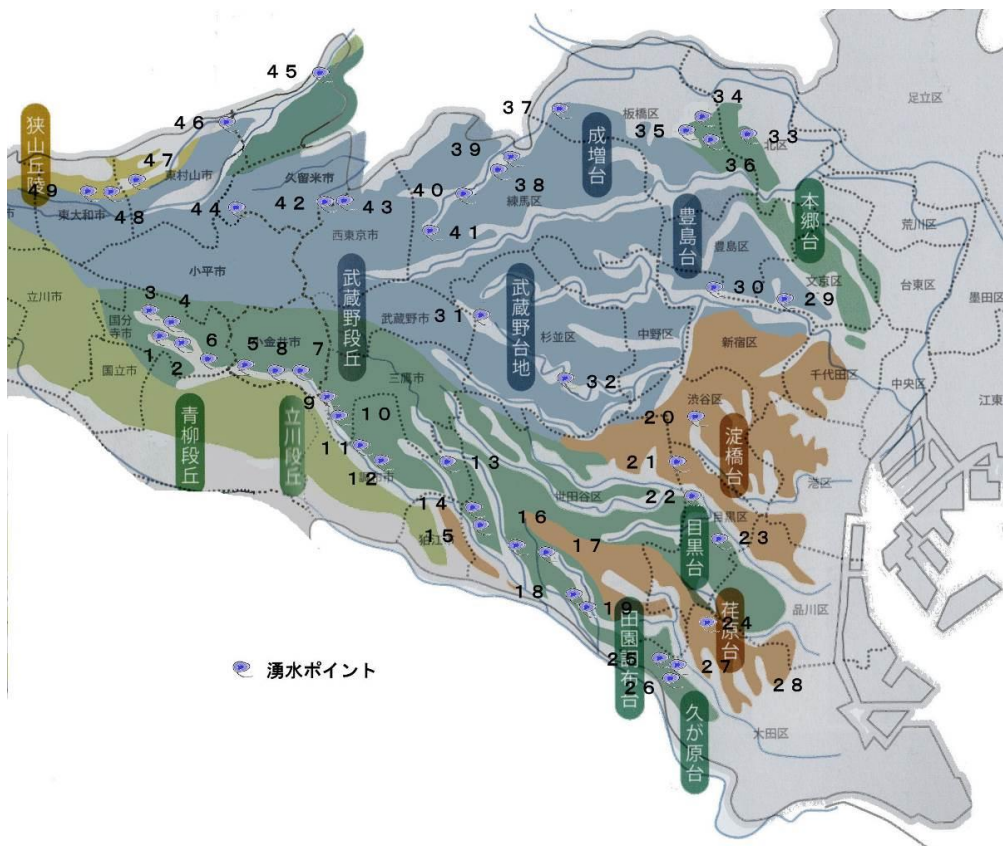
地図豆知識：武蔵野台地の湧水

よく知られている武蔵野台地湧水には以下がある。

1. お鷹の道・真姿の池
2. 殿ヶ谷庭園
3. 姿見の池
4. 日立中央研究所

5. 貫井神社
6. 新次郎池
7. ハケの森美術館
8. 滄浪庭園
9. 野川公園
10. ほたるの里三鷹村
11. 深大寺
12. 都立農業高校神代農場
13. 実篤公園
14. 神明の森みつ池
15. 成城三丁目緑地
16. 大蔵三丁目公園
17. 岡本静嘉堂緑地
18. 五島美術館
19. 等々力溪谷・等々力不動尊
20. 清正の井
21. 東大駒場三郎池
22. 東山貝塚公園
23. 目黒不動尊
24. 清水窪弁財天
25. 田園調布せせらぎ公園
26. 六郷用水
27. 東調布公園
28. 山王清水公園
29. 関口芭蕉庵
30. おとめ山公園
31. 善福寺川 原寺分橋下流
32. 善福寺川 御供米橋下流
33. 赤羽自然観察公園
34. 小豆沢公園
35. 志村清水坂緑地
36. 見次公園
37. 不動の滝
38. 清水山憩いの森
39. 稲荷山憩いの森
40. 八の釜憩いの森

41. 大泉井頭公園
42. 南沢緑地
43. 竹林公園
44. 黒目川天神社
45. 金山調節池
46. 秋津公園
47. 多摩湖緑地
48. ニツ池公園
49. 湖畔集会所裏



武蔵野台地の湧水（東京都環境局「東京の名水 57 泉」から）

地図豆知識：関東平野の変遷と河岸段丘（再掲）

地質年代の関東平野の変遷を大急ぎでたどってみると、約 12～13 万年前の海進最盛期、関東平野は全面的に海であったが、（下末吉海進）、その後、海面は周期的に上昇と低下を繰り返し、この時期に関東平野の基盤となる武蔵野台地や相模原台地が形づくられた（約 10～6 万年前）。

その後、海面が約 100m 以上も低下して東京湾が陸となった（約 2 万年前）が、再び海面が上昇し、入江は関東平野の奥深くにまで進んだ（約 6000 年前）。そして、歴史時代に入ると、土砂の流入によって河口には三角洲が発達し、現在のような関東平野が作られた。

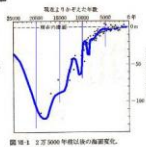
こうした地形変遷過程の一時期、河床の高度が安定したのちに地盤の隆起あるいは海面の低下が起き、その後河川流水による浸食によって河床が大きく低下した結果、河川氾濫原の周囲に形成されるのが河岸（河成）段丘である。

同じような段丘面と段丘崖からなる海岸（海成）段丘は、やはり地盤の隆起あるいは海面の低下に関連して海岸線に沿って形成された階段状の地形である。この場合、段丘面はもとの海底面、段丘崖は海流によって浸食された海蝕崖である。

両者を見分けるには、現河川や海岸周辺といった存在場所だけでは不十分で、むしろ段丘に近くに存在する微地形や堆積物などを調査して行なう必要がある。河岸段丘も海岸段丘も日本各地で多く見られる。



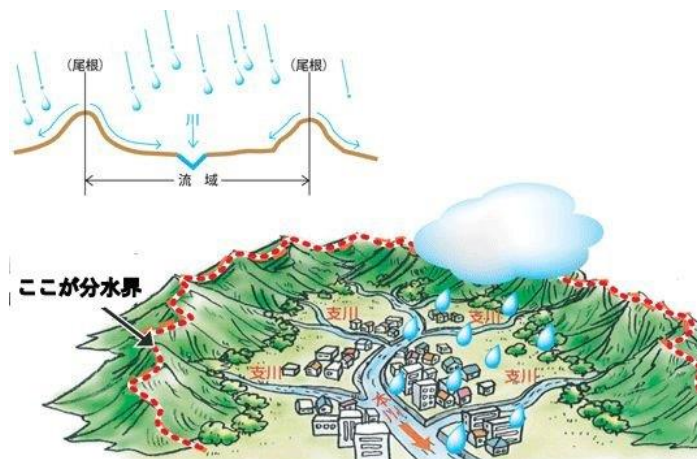
図 Ⅴ-5 関東平野の変遷(貝塚, 1961 を改訂)
左列の三角は活動中の火山。右列の断面にみえる黒い層は関東ローム層の上部(立川ロームと武蔵野ローム)、点は河岸段丘砂礫層、縦線は主に海成層(成田層群と沖積層)。



関東平野の変遷

地図豆知識：分水界（再掲）

分水界とは、流域（水系）の境界線のこと、分水嶺とも呼ばれる。すなわち、雨水が異なる河川に流れ込む境目のことだから、一般的には稜線と分水界は一致する。



分水界・流域というもの（鶴見川流域ネットワーク HP から）

地図豆知識：河川争奪と谷中分水界（再掲）

河川は、分水界と海岸線などで閉じる領域、河川流域を集水域としている。

言い換えるなら、隣接する河川は、分水界を境にして領地争いをしているに等しい。ときに、河川浸食などによって分水界を取り崩すことがあれば、隣り合う水流の領地である河川流域を奪い取るだろう。

例えば、二つの河川に高度差があって、一方の河川の侵食が激しい場合、分水界が次第に浸食の少ない他の一方の河川の側に移動し、水流を奪う現象を河川争奪といい。これによって生じた地形を河川争奪地形という。

また、分水界は山稜に存在するのが一般的である。ところが、こうした浸食による場合のほか、谷の一部で局所的な隆起や傾動が起きて河川争奪状態になった場合には、ゆるやかな谷の中に分水界が存在する。これを谷中分水界と呼ぶ。このとき分水界は、顕著な尾根とはならない。

河川争奪と谷中分水界は、身近には等々力溪谷（谷沢川）の北端や（上野）谷田川の北端で見られる。

地図豆知識：崖地の自然（再掲）

関東平野では、基盤となる地層の上に関東ローム層と呼ばれる富士山や箱根火山の火山灰が堆積していて、基盤（礫や粘土層）は水分を含んでいる。したがって、ショートケーキの切り口のように粘土層などがむき出しになった浸食崖のちょっとした谷間からは、浸み出す湧き水や泉が見られる。

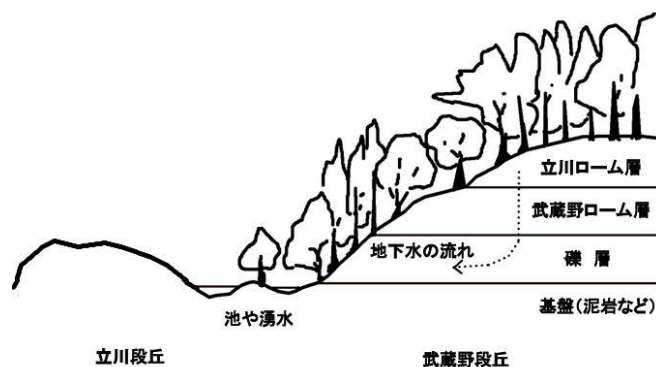
一方で、こうした浸食崖の地形は日本各地どこにもあって、豪雨による崖崩れなどの災害被害を受けやすい場所である。したがって、従来周辺住民は地域を災害から守るために、崖地の開発を出来るだけ遅らせてきた。崖の上下には住宅地が広がっても、その狭間になった傾斜地には鬱蒼とした常緑広葉樹林が残されてきたのである。

ところが、東京のような大都会では、こうした地域にも開発の手が入っている。それでも一万分の一の地形図をよく見ると、込みあつた等高線の連なりの中に、森林地を示す緑色の塊を随所に発見できる。

地図豆知識：国分寺崖線（再掲）

東京都の西部に位置する国分寺周辺にみられる崖を「国分寺崖線（ハケ）」と呼び、これは（河岸）段丘崖である。国分寺崖線ほどの段差は見られないが、南に位置する調布市街地の先にも、もう一つの河岸段丘と崖があって、それぞれ武蔵野段丘、立川段丘と呼ぶ。

かつて文学作品にも登場したという武蔵野のハケの道を歩きながら、崖地の自然は現在どのようになっているだろうか、湧水はどのていど残っているだろうか、河川浸食によって作られた崖がどれほどのものか、併せて都市近郊に自然がどれほど残っているかを確認してみると楽しい。



武蔵野段丘と湧水

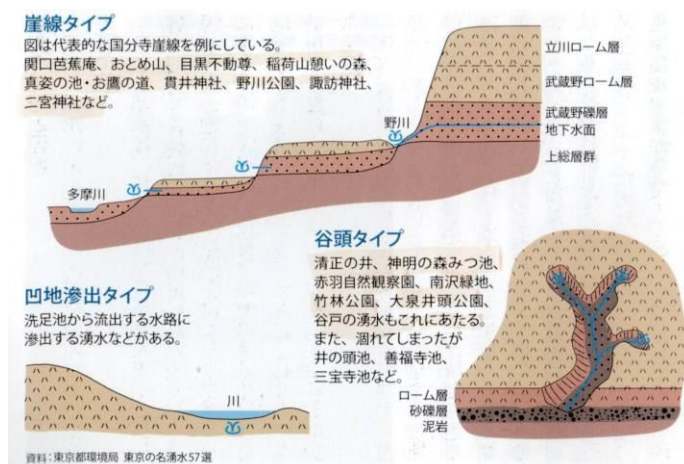
地図豆知識：湧水の種類（再掲）

湧水は以下のようなタイプに分類される。それぞれの湧水がどのタイプのものか観察してみるといい。

崖線タイプ：川によって浸食された台地の段丘崖や断層面に露出した砂礫層から湧くもの。砂礫層の下部は水を透しにくい粘土層や泥岩になっていることが多い。湧水を供給するかん養域はごく狭い範囲である。

谷頭タイプ：台地上の馬蹄型や凹地形などをした谷頭（台地面の谷の奥）の地形的に水を含む層が露出したところから湧くもの。地下水が湧水する力で谷頭地形が形成されることが多く、かん養域はごく広い範囲である。

凹地滲みだしタイプ：川床や凹地に地下水や伏流水が圧力で滲みだしてできる湧水。かん養域は地下水や伏流水に関連した広い範囲である。



湧水の分類（東京都環境局「東京の名水 57 泉」から）

地図豆知識：ハケという地名（再掲）

谷川の兩岸の山のせまっているところを、ホキ・ホケ・ハケと呼ぶことがある。四国の大歩危・小歩危がいい例である。

また、崖の上面を〇〇ハケとも呼び、高原の水の流れの乏しいところをコウゲと呼び、「峡下」などの文字を当てることもある。関東では「峡」をハケと読ませて、同じ高台の端の方、あるいは崖を意味する。「八景」「峡田」「峡上」「岨下」・・・などもおなじ。

地図豆知識：谷戸（ヤト）地名から（再掲）

谷のことをヤ、またはヤツと呼ぶことは、よく知られている。世田谷、四谷、扇ヶ谷、などである。後者のヤツは、鎌倉などに特有なもので、東北地方などではヤチ、他の関東地方ではヤ、ヤトと呼び、後者に谷戸の文字を当てることが多い。

東日本で使われるヤチは、湿地が始まりだと思われる。その湿地に類するものを西日本では、フケ、ウダ、ムダなどと呼ぶ。

また、ヤチの周辺などにある崖とその上面をハケ、側面をハバ、ママと呼ぶことも周知のことである。大間々、真間などがそれである。そして、山から水のしみ出している場所を、ニタと呼ぶ。仁田沢などがその例である。